■ 主要科目の特徴　≪リハビリテーション学科作業療法学専攻≫

①	科目名	リハビリテーション解剖学	
	配当学年・学期	1年生／後期	
科目の特徴	リハビリテーションを学ぶ者にとって、人体の構造を理解することは必要不可欠である。人体で運動機能に関係する組織は、筋、骨、関節、神経など様々あるが、運動を実際に起こすのは筋である。筋は骨に付着しているため、筋と骨の両方の知識を学ぶことは運動を理解するために重要である。このため、本講義では運動を起こす土台となる筋骨格系といった解剖学の基礎を教授する。		
②	科目名	作業療法評価学実習Ⅰ（中枢神経系障害）	
	配当学年・学期	2 年生／後期	
科目の特徴	本科目では、主に身体機能の評価について、講義で学んだ知識を基に、グループ実習を通して、実際の検査・評価技術を学ぶ。具体的には、関節可動域、筋力、反射、感覚、小脳機能、中枢性運動麻痺などの検査・評価技術を、グループごとに実際に経験することにより、またお互いにその技術についてディスカッションすることにより学ぶ。		
②	科目名	地域生活作業療法学	
	配当学年・学期	3 年生／前期	
科目の特徴	地域での作業療法士の取り組みについて学習し、作業療法士が医療だけでなく、保健・福祉分野で活躍することが重要であることを理解する。地域で生活している障害者、高齢者の生活の自立支援に向けて、作業療法士の立場から支援していくために必要な知識・評価・実施方法を学ぶ。		
③	科目名	総合臨床実習	
	配当学年・学期	4 年生／前期	
科目の特徴	杏林大学付属病院および学外病院、施設において、教員・臨床実習指導者の指導のもと、3 年次までに学んだ各領域の作業療法評価学および作業療法治療学の知識をもとに臨床の場で作業療法の実際を経験する。作業療法士が実際の患者、対象者に作業療法を実施している場面において、指導のもと作業療法の評価および治療・訓練・支援を実施する。実習前（実習前の学生の技術の確認、総合的知識及び基本的技能・態度）と後（経験した知識の確認）の評価を行う。		